

“記憶の一族”の少女ララは  
死を迎えた人間のもとへ向かい、  
生前の記憶を集めることを生業としていた。

多彩な生の歩み。多様な生の結末。  
同じものは一つとしてなく、それぞれの人生がある。

ララは人という存在に興味を抱くも  
人の記憶を葬送する“歌い手”の姉アリデラに  
『人に直接関わってはならない』という一族の掟を守るよう諭される。

——どうして人と関わってはいけないの？

興味から生まれた素朴な疑問。  
その疑問はやがて少女の生き方を変えていく。

# ララのうた

Lala no uta

——これは死神の少女が紡ぐ 記憶と歌の物語——

©河野スイ / 主婦と生活社 / 定価 715 円 (税込)

